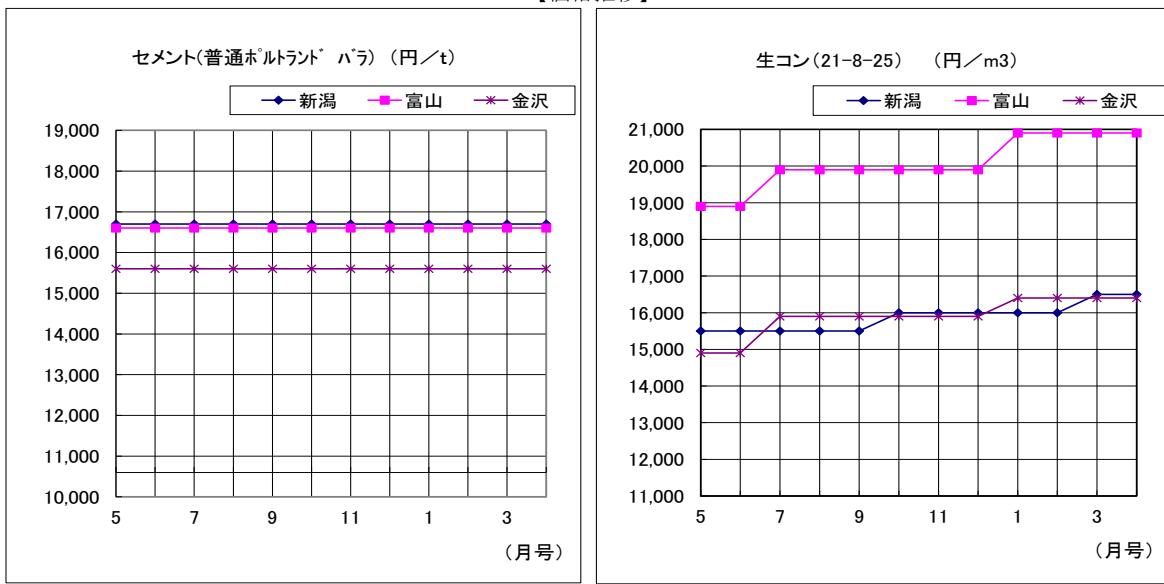


5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品目	1~3月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>【新潟県】セメントメーカー各社は、物流や設備投資に掛かるコスト上昇を理由に、2025年4月よりt当たり2,000円程度の値上げを表明。販売側の強気の姿勢に対し、大口需要者である生コンメーカーは抵抗感を示しているが、セメント値上げを想定した生コン価格の改定を打ち出し、価格転嫁を同時に進めることで対応していく方針。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】セメントメーカー各社は、2025年4月よりt当たり2,000円程度の値上げを表明。要因としては、輸送コストや工場設備の維持修繕費用の高騰を挙げている。メーカー各社の売り腰に緩みはなく、需要者側は大幅な値上げに対し難色を示しているものの、セメント価格の上昇を背景に生コンの値上げを表明するなど、値上げの浸透を想定した動きを見せている。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【石川県】セメントメーカー各社は、物流や工場設備の維持補修などに要するコスト増を背景に、2025年4月出荷分からの値上げを表明。需要者側は、石炭価格が下落していることから値上げに対し難色を示したもの、供給元が限られるため交渉材料に乏しいうえ、生コン価格の引上げを同時期に実施していることもあり、受け入れの姿勢を示している。先行き、強含みで推移しよう。</p>	(バラ物) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
生コンクリート	<p>新潟地区で価格上伸</p> <p>【新潟県】新潟生コン協組では、製造コスト高騰分の価格転嫁が不十分として、2024年4月よりm3当たり1,000円の値上げを表明し、需要者と交渉してきた。価格重視の方針を堅持する協組の動きを見て、非組合員においても数量より採算重視へ方針を転換。需要者側がコスト増に一定の理解を示したことで値上げが受け入れられ、価格は2024年9月・2025年2月にそれぞれ500円上伸した。原材料コストの上昇が見込まれる中、協組では2025年4月より新たにm3当たり2,000円の値上げを表明している。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山県における各生コン協組は、現行価格水準の維持および安定供給に注力する一方で、2025年4月よりセメントに値上げの動きが出来ていることを主要因に、各協組は2025年4月よりm3当たり2,000円の値上げを表明し、需要者へ理解を求めている。需要者側は、コスト増の要因が原材料価格上昇によるものであることに一定の理解を示すものの、度重なる値上げに対し難色を見せており、交渉には慎重な構えで臨む模様。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】県内各地区的生コン協組が生コン市況の維持に注力する一方、需要者側も模様眺めの状況から価格に動意は見られない。販売側は、セメントや骨材などの原材料コスト上昇が見込まれることから、2025年4月よりm3あたり3,000円程度の値上げを表明している。需要者側は大幅な値上げに対し難色を示しているが、全県的な値上げの動きに対し売り手主導で交渉が進むとみる向きもある。先行き、強含みで推移しよう。</p>	(21-8-25) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
骨材	<p>新潟地区・能登方面で価格上伸</p> <p>【新潟県】路盤材メーカー各社では、出荷量の低迷および製造コストの上昇を理由に、2023年4月よりm3当たり500円の値上げを表明。新潟地区では需要が乏しい中、販売側では限られた物件に対し価格交渉を徹底。諸資材が軒並み値上がりしている状況下、需要者側は値上げに対し理解を示し、2025年3月に価格はm3当たり400円上伸した。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山県骨材販売協同組合は、過年度交渉の積み残し分も含め、2024年4月からm3あたり合計950円程度の値上げ獲得に向け需要者と交渉。9月に値上げの一部である450円が浸透したが、能登半島地震の災害支援向けの出荷増を背景に、販売側は積み残し分の値上げに対して売り腰を強め交渉を展開。需要者はやむなく値上げを受け入れた結果、2月に市況は上伸した。協組は、2025年度については現行価格の維持および安定供給に注力する構え。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】災害復旧工事需要によりダンプトラックの需要がひつ迫し、運搬費が上昇していることを背景に、販売側では路盤材の値上げを実施。能登方面では道路工事や民間住宅向けの需要が継続していたため、年末から年度末にかけて新価格が徐々に浸透し、2025年2月に価格はm3あたり100~200円上伸した。なお、県内メーカー各社は、2025年3月~4月よりm3あたり400円~500円程度の追加値上げ実施している。先行き、強含みで推移しよう。</p>	(C-40) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡

【価格推移】



品目	1~3月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p>新潟で価格下落</p> <p>【新潟県】販売側は、需要低迷による競争要因の増加を背景に販売数量を確保する動きを見せ、需要者側の要求に応じた結果、1月にt当たり1,000円の下落を示した。年度末にかけても需要は低調に推移したが、販売側は採算確保のため価格維持の姿勢を堅持。一方、需要者側は原材料鉄スクラップの市況低迷を背景に値引き要請を強めている。需要回復の兆しは見えず、先行き、弱含みで推移しよう。</p> <p>【富山県・石川県】原材料の鉄スクラップは2月にt当たり1,000円下押すも、不需要期とあって動意薄の展開となった。販売側は、運搬コストの上昇を背景に現行価格の維持に注力しているが、需要者側の購買姿勢は厳しさを増している。需要低迷が長期化する中、目先の需要に明るさは見られず、市況の下支え材料は見当たらない状況。先行き、弱含みで推移しよう。</p>	(異形棒鋼) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
コンクリート二次製品	<p>新潟の売り腰強まる</p> <p>【新潟県】メーカー側は、骨材や運搬費の上昇を背景に、2024年4月から自由勾配側溝など一部製品において値上げを実施。上半期は、引き合いが乏しく価格交渉が難航し、進展はみられなかった。しかし、2月に中堅クラスのメーカーが倒産したことにより危機感を強め、製造コスト上昇分を販売価格に早急に転嫁するべく、降雪期が終わる需要期を目標に売り腰を強めている。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】メーカー側は、昨年からの値上げが未達であるJIS小型製品全般について、需要期である年度末を迎えたこともあり重点的に需要者との交渉を進めた。こうした中、12月～1月にかけて民間の大口需要で需給がタイト化したことを背景に、販売側は売り腰を強めた。需要者側は、県内の供給メーカーが限られており、安定供給を確保するためには値上げ受入れもやむを得ないと考えが主流となり、2月に値上げの一部を受け入れた。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】県内のコン二次需要は大型案件に乏しく低調に推移している。能登方面の災害復旧工事向け出荷も、動き出すのは2025年度からとなる見通し。1月～3月期では、販売側は市況維持に注力しており市況に変動はみられない。県内のメーカー各社は、2025年4月以降のセメントの値上げをはじめとした原材料コストの上昇及び能登方面における輸送能力の低下を販価に転嫁するため、2025年4月より製品全般に2～7%程度の価格改定を打ち出すとともに、奥能登地区については別途運賃を加算する動きを見せている。目先、横ばいの見通し。</p>	(道路用製品) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
アスファルト合材	<p>石川県で価格上昇</p> <p>【新潟県】メーカー各社は、ストアス価格の高止まりや2025年度からの骨材・石粉の値上げ要請などが控えていることから、値上げの検討を行っている。一方で、出荷量の大幅な減少が続いていることや、ストアス価格の動向が不透明であるため、各社の対応を睨みながら値上げのタイミングを模索しつつ、需要者側からの指値には応じず現行価格の維持に注力している。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】メーカー各社は、原材料であるストアス価格が上昇に転じたものの、一過性の動きであるとの見方や、2025年度の骨材価格に値上げの動きがないため、1月～3月にかけては現行価格の維持および安定供給に注力した。一方で、需要環境は低調に推移していることからプラント固定費が圧迫し、先行きも製造コストの改善は見込めないとして価格改定の検討を重ねるプラントも散見される。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】省内需要は、能登エリアでは災害復旧工事向けに好調に推移している。一方、金沢を含む加賀エリアは荷動きが冴えない。能登の災害復旧工事に伴うダンプ需要のひっ迫を背景に運搬費が上昇したことを受け、メーカー側は採算の改善も踏まえ販価の引き上げを需要者に求めた。需要者側は難色を示したものの、ダンプが手配しにくい状況は認識しており、安定供給への懸念からやむなく値上げの一部を受入れた結果、3月にtあたり400～600円程度の上伸を示した。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	(粗粒-20) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡

【価格推移】

